

長崎大学 大学院教育学研究科

Graduate School of Education, Nagasaki University

2024

教職大学院への誘い



さあ、一緒に未来の教育作りを始めよう！

本研究科には、長崎県が直面する地域の縮小化等の今日的課題への対応や計画的人材育成に資するために、研究者教員が持つ高い専門性と学校・教育行政の経験がある実務家教員による協働した指導体制のもと、3つのコース（子ども理解・特別支援教育実践、学級経営・授業実践開発、教科授業実践）と管理職養成コースがあります。いずれの学びでも理論と実践の往還が意識されており、学校教育の即戦力、或いはミドルリーダーとなる人材育成を目指す3つのコースと学校や地域教育界のリーダーとなる人材育成を目指す管理職養成コースの院生が共に学び合い、実習等での学びや体験を省察する中で、自身の教育観を練り上げています。特に各院生がテーマを掲げる実践研究では、本研究科と教育委員会・教育センター・学校現場での指導のもと、長崎県の教育界が培ってきた教育の不易の部分と大学の講義等で学ぶ教育の流行を踏まえ、学校や地域といった背景も捉えながら、院生自身の教育的な課題の解決により教員としての力量を高めるとともに、その成果をもって地域教育界に貢献することを目指しています。



教育学研究科長 藤本 登

入学者別の養成教員像

志願者の履歴と免許資格に応じて用意された四つの教育プログラムで養成される教員像は次のとおりです。

現職教員の場合

1年プログラム
または
2年プログラム

教師としてスクールリーダーを目指して学ぶ人のプログラム

- 強い生徒指導力と高い学習指導力を身につけ、チーム学校を先導する
- 組織論等を生かした確かな学級・学校経営力を身につける

教員免許を持っているが教職経験のない学士の場合

2年プログラム

教師としての資質・能力を高めたい人のためのプログラム

- 子どもや教職をより深く知る
- 授業実践力、指導力を持つ
- 学校における課題解決に取組む資質・能力を培う

教員免許を持っていない、あるいは他の校種の免許を取得したい学士の場合

3年プログラム

新たに教師の道を目指したい社会人や教員免許を持たない人のためのプログラム

- 2年間で教職の基礎を学ぶ
- 3年目は教職経験のない学士の2年プログラムと同じ資質・能力を身につける

- 子どもも理解・特別支援教育実践コース
- 学級経営・授業実践開発コース
- 教科授業実践コース

アドミッション・ポリシー

上記3つのコースは、入学者に次の資質・素養を求める。

- 学部教育で培った能力を発揮させ、学校教育への課題意識を持ち、問題解決に立ち向かう意欲を持っている。
- 子どもを理解する力、授業を実践する力をより高めていく意欲がある。
- 児童生徒の発達・教育に関する基礎知識・授業実践の基盤となる教科の基本的知識を持ち、基礎的な倫理性と教師に必要なコミュニケーション能力がある。
- 特に現職教員では、自己の能力向上を目指すとともに、地域の教育界の充実に貢献する意欲がある。

カリキュラム・ポリシー

上記3つのコースは、次の知識の修得、資質・能力の育成、責任感等を培うためのカリキュラムの編成、学修方法、学修支援を行います。

- 生徒指導・教育相談について：的確な子ども理解力を身につけ、生徒指導・教育相談を実施できる高度な力を育成する。
- 学級・学校経営について：教育現場でリーダーシップを発揮し学校の諸機能を向上させ、学校や学級の経営に関するマネジメント能力について高い知識を修得させる。
- 教科等の実践的指導法・ICTの活用について：教科の知識・技能を獲得しICT機器等も活用して授業改善のできる優れた授業実践力と教科指導力を身につけさせる。
- 教育課程の編成と実施について：児童生徒の資質、能力、ニーズや現代的な教育課題を理解して教育課程を編成し実施できる高度な力を育成する。
- 学校教育と教員のあり方について：地域社会との連携や協働に関する学びや教育実習を通して学校教育と教員のあり方について高い知識を修得させ、教育を担う専門職としての使命感と責任感を培う。

教職実践専攻(3コース)の実習スケジュール(例)

教職実践専攻（3コース）の教育実習は、学校教育実践実習1～5の5つの実習から構成されます。これらの実習をいつ行うかは、下図のように履修プログラムによって異なります。各実習では、主たる取組内容が異なっています。また、自らが実習の目的を設定し、附属学校園およびその他の実際の学校現場で実践を行います。これらの実習を、学校教育実践研究1～4に繋げ、最終的には実践研究報告書にまとめます。

プログラム		学年	曜日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年プログラム	現職教員		火	実践実習4				実践実習5							
2年プログラム	現職教員	1	火	実践実習1			実践実習2	実践実習3		実践実習4					
		2	火	実践実習5											
2年プログラム	学部卒	1	火	実践実習1			実践実習2	実践実習3							
		2	火	実践実習4			実践実習5								
3年プログラム	学部卒	1・2		実践実習1	実践実習2	実践実習3	実践実習4	実践実習5							
		3	月・火												

1年プログラムは実習1～3までを免除

ディプロマ・ポリシー

上記3つのコースは、所定のカリキュラムによる教育プログラムに定められた単位を取得し、次の資質・能力を備えた者であると認められ、実践研究報告書（最終レポート）の審査および最終試験に合格した者に対し、教職修士（専門職）を授与します。

- 一人ひとりの児童生徒のニーズを理解し、的確に対応できる能力
- 高い実践力を持ったスクールリーダーとなれる資質
- 学級・学校の機能をより向上させるマネジメント能力
- 優れた授業実践力と適切な教科指導力

子どもも理解・特別支援教育実践コース



本コースでは、子ども理解や特別支援教育の視点から、一人ひとりのこどもを大切にしたい、子どもたちの可能性を伸ばしたいという思いを持ち、教育相談や障害もしくは障害の可能性のある児童生徒の教育について関心のある人を求めています。

「特別支援アセスメント事例研究」「発達と学習の心理学」「学級集団づくり・ソーシャルスキル教育の指導法」などのコース独自のカリキュラムによって、子どもたち一人ひとりの実態と教育的ニーズを的確に把握し、適切な指導と支援を行うことのできる高い専門知識と実践力を持つ教員を養成します。

子どもたちの発達の実態や特性は、一人ひとり異なります。しかしながら、集団での関わりの中ではつい「させなければいけないこと」「させてはいけないこと」などに目が向かいがちになることが多いのではないか。教師が子どもたちの特性を適確に把握する力や指導の技量を伸ばすことにより、声掛けや接し方を変えることができます。そのことは、集団の中にあっても、一人ひとりの子どもたちが「自分」の良さを意識し、その力を活かしながら、自分の所属する集団をより良くしていきたいという意欲にもつながることでしょう。

本コースでは、子どもの持つ可能性を引き出す教師の力や、不登校や生徒指導上の諸課題、障害のあるもしくは障害の可能性のある子どもの障害実態や発達に関連した諸課題などそれぞれのニーズや課題にあった教師の対応力を養います。

専攻共通科目

- 学習指導要領と教育課程(初等、中等)
- 授業研究の理論と実践
- 特別支援教育の授業・教育課程論
- 教育の情報化の研究と実際
- 児童生徒の理解と方法
- 教育相談の理論と実際
- 特別支援教育の心理学
- 学級経営と学校経営の理論と実践
- 教職実践協働運営演習
- 教員の資質と職務
- 特別支援教育の基礎理論
- 教職実践の省察と事例研究
- 学校教育実践研究

コース科目

- 生徒指導・キャリア教育の方法
- 学校カウンセリングの実践法
- 発達と学習の心理学
- 特別支援教育のシステム論
- 特別支援アセスメント事例研究
- 発達障害児の理解と支援
- 特別支援教育の生理・病理学
- 肢体不自由児の理解と支援
- 病弱児の理解と支援
- 重度重複障害児の理解と支援
- 特別支援学校・学級経営論
- 学級集団づくり・ソーシャルスキル教育の指導法
- 学校の危機管理

実践研究報告書(最終報告書)のテーマ例

- 特別な支援をする児童への仲間との良好なコミュニケーションを促す指導・支援
- 子どもが“つながり”成長を実感できる学級づくり～継続した学級単位 SST を通しての実践研究～
- インクルーシブ教育の視点を活用した小学校道德科の授業づくり
- 外国にルーツのある子どもの発達支援と教育保障～日本語指導担当教員の役割とニーズを中心に～
- 小学校通常学級に在籍している ADHD 児への休み時間の支援
- 通常学校における特別支援教育の実践～ポジティブ行動支援(PBS)の手法を参考にした指導と支援について～
- 小学生の未来志向的な生きる力のベースとなる非認知能力の育成

学級経営・授業実践開発コース



本コースは、活力ある学級を作り、効果的な授業を実践できるとともに、適切な教育課程を編成する力、授業を改善する力等を備えた、高い実践力を持つ教員を養成します。また、地域社会との連携、同僚との協働など、学校内外をとりまく様々な関係者とのコミュニケーション構築を積極的に推進し、学校教育を総合的にマネジメントできる力を持った、スクールリーダーを段階的に育成していきます。

このような人材育成を目指して、専攻共通の授業科目や学級経営、生徒指導、各自の研究課題に即した実習科目、また、当コースの独自科目として「学級経営における人間関係の形成」、「教科経営の実際と授業分析・評価」、「道徳教育の理論と実際」、「ふるさと教育と総合的な学習」等の授業が開設されています。さらに、本コース院生が主体的に取組んでいるワークショップ型のセミナー「クロスセッション」もあります。このセッションでは、現職教員学生と学部卒学生が共修・協働し、研究者教員、実務家教員も一緒に参加して、学生が自らの教育実践研究について途中経過を報告したり、報告について他者と議論したりすることで、より高い実践的力量の形成に努めています。

そうした座学で学ぶ理論と実習科目を通じた実践を往還しながら、(1)児童や生徒の学びの実態を十分踏まえて教育実践を省察し、(2)児童・生徒の学びに合わせて学問的理論や知識を再構築し、(3)教育内容や教育方法を改善・開発するという手順を踏んで、自らの研究課題に即した実践研究を行います。理論と実践を積み重ねた研究は、修了時に「実践研究報告書」としてまとめます。

専攻共通科目

- 学習指導要領と教育課程(初等、中等)
- 授業研究の理論と実践
- 特別支援教育の授業・教育課程論
- 教育の情報化の研究と実際
- 児童生徒の理解と方法
- 教育相談の理論と実際
- 特別支援教育の心理学
- 学級経営と学校経営の理論と実践
- 教職実践協働運営演習
- 教員の資質と職務
- 特別支援教育の基礎理論
- 教職実践の省察と事例研究
- 学校教育実践研究

コース科目

- 学級経営における人間関係の形成
- 教科経営の実際と授業分析・評価
(初等、中等)
- 教材論と学習指導の実際
- カリキュラムの理論と実践
- 道徳教育の理論と実際
- ふるさと教育と総合的な学習
- 人権教育の理論と実際
- 福祉教育の理論と実際
- 國際理解ワークショップ
- 複式学級の教育と実際
- 学校の危機管理

実践研究報告書(最終報告書)のテーマ例

- 児童の実態把握を踏まえたやり抜く力を育成するカリキュラムマネジメント—道徳・学活・運動会を関連させて—
- 知識間の繋がりを重視した学習指導のあり方
- 中学校家庭科におけるキャリア教育の実践と可能性の検討
- ICTを活用した授業実践の事例研究—GIGAスクール構想の実現に向けた一人一台端末の活用を中心として—
- 中学校における社会に開かれた教育課程の課題と改善の手立て～総合的な学習の時間を中心としたカリキュラム・マネジメント～
- 机間指導における学びを促す手立て
- 学ぶ楽しさを感じられる小学校外国語の授業づくり

教科授業実践コース



本コースは、教科教育、教科内容および児童・生徒に対する深い理解に基づき、各教科の授業で効果的に指導することができる高い授業実践力をもつ教員を養成します。

そのため、必修の授業「教科の指導と評価」「教科指導におけるカリキュラム・マネジメントと情報活用能力の育成」をはじめ、各教科の内容学および指導法に関する科目が多数開設されています。いずれも少人数クラスできめ細かい指導が行われ、専門分野の理解の深度を図るとともに、各自の授業実践に活かせるよう、理論と実践の往還を図っています。指導体制としては、一人の学生に複数の指導教員を配置して実践実習を実施します。まず「学校教育実践実習1～3」で児童・生徒に関わる知見を深め、次に「学校教育実践実習4・5」で教科の授業を数多く実践します。

本コースの「学校教育実践実習4・5」では、各自が設定した課題に沿って組み立てた教科の授業を実践します。新学習指導要領に応じた授業の工夫や、新しい社会の変化に応えた授業、生徒が主体的に学ぶ工夫など、各教科の課題解決に向けて「学校教育実践研究3・4」で検討し、確かな授業実践力を身につけていきます。その成果は「教育実践研究フォーラム」や「実践研究成果発表会」で発表し、内外からの助言指導を元に、今後の研鑽に繋げています。

専攻共通科目

- 学習指導要領と教育課程(初等、中等)
- 授業研究の理論と実践
- 特別支援教育の授業・教育課程論
- 教育の情報化の研究と実際
- 児童生徒の理解と方法
- 教育相談の理論と実際
- 特別支援教育の心理学
- 学級経営と学校経営の理論と実践
- 教職実践協働運営演習
- 教員の資質と職務
- 特別支援教育の基礎理論
- 教職実践の省察と事例研究
- 学校教育実践研究

コース科目

- 教科の指導と評価
- 伝統的言語文化に関する教科内容研究法
- 社会科・地理歴史科教育の理論と方法(初等)(中等)
- 理科授業設計
- 情操を育む音楽活動実践研究
- 美術の教材開発 a(心象表現)
- 身体運動の理論と実際
- 環境とエネルギーの教育展開
- 家庭科授業の研究と開発
- 授業のための英語文化理解

実践研究報告書(最終報告書)のテーマ例

- 小学校外国語活動における学級担任の不安を軽減するための工夫
- 中学校外国語科(英語)における「社会的な話題」に関する英作文指導
- 小学校音楽科における「思いや意図」を実現する学習プロセスの開発
- 生徒の思考力や判断力を働かせる中学校社会科授業の実践研究
- ICTを適切に活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現に繋げる理科授業の実践
- 高等学校生物におけるメタ認知を活性化する授業デザインとその効果
- 美術科教育における創造性の育成について



○管理職養成コース



アドミッション・ポリシー

管理職養成コースは、入学者に次の資質・素養を求める。

- スクールリーダーを目指す現職教員で、自己の能力開発と学校教育の充実・振興に貢献する意欲を持っている。
- 児童生徒の発達や教育に関する知識を持ち、学校教育の現代的課題解決への意欲がある。
- 学校教育に関する経験と実践力を有し、高度な倫理性とコミュニケーション能力がある。

カリキュラム・ポリシー

管理職養成コースは、「長崎県 校長等としての資質の向上に関する指標」を踏まえ、以下の資質・能力を育成するカリキュラムの編成、学修方法、学修支援を行います。

- 学校教育のミッションと教育をめぐる国内外の動向を深く理解するとともに、確固たる教育理念を培う。
- 学校教育の諸課題と子ども・保護者・地域の実態を把握したうえで、自校のビジョンを形成し、実践・検証・改善する資質・能力を育成する。
- 保護者・地域・関係機関等と連携し、学校内外の資源を有効に活用しながら「社会に開かれた教育課程」を実現する資質・能力を育成する。
- 学校安全の確保へ向けた安全管理・危機管理を組織的に展開する資質・能力を育成する。
- 教職員を適正に評価し、その能力や課題に応じて指導することを通して、一人ひとりの力量形成を図る資質・能力を育成する。
- 特別支援教育の理念を理解するとともに、すべての児童生徒の発達を支援する学校教育を組織的に展開する資質・能力を育成する。

ディプロマ・ポリシー

管理職養成コースは、所定のカリキュラムによる教育プログラムに定められた単位を取得し、次の資質・能力を備えた者であると認められ、実践研究報告書（最終レポート）の審査および最終試験に合格した者に対し、教職修士（専門職）を授与します。

- 高い実践力を持ったスクールリーダーとしての資質
- よりよい学校組織を構築するマネジメント能力
- 学校教育の現代的課題を解決する実践力
- 一人ひとりの児童生徒の実態に応じて的確に対応できる教員を育成する能力

講義

管理職に必要な資質・能力を高めることができるプログラム

学校組織マネジメント演習（通年）

組織開発についての文献の理解をベースに、学校現場の問題や管理職としての対応策等を、ディスカッションをとおして明らかにしていきます。実態（問題）把握のためのデータ収集と分析法も学びます。



学校経営総論（前期）※1

／学校危機管理の理論と実践（後期）※2

長崎県の様々な分野をリードする方々のお話を聞くことができ、「育成指標」の観点から学校経営について考えることができます。また、学んだことを咀嚼し、自分の言葉に起こしていく作業は、管理職として学校現場で何ができるかを、具体的に考えることができ、資質を向上させてくれます。

講義タイトル

- ・「長崎県の教育行政施策」（県教育庁義務教育課 課長）
- ・「PTAと学校経営」（元日本PTA全国協議会会長）
- ・「最新の学校危機管理事案」（県教育庁 児童生徒支援課）
- ・「リーガルマインドからみた学校教育」（長崎県弁護士会 弁護士）
- ・「高等学校における学校経営」（長崎県立長崎東高等学校 校長）など

※1：令和元年度「学校経営総論」及び「学校教育実践実習4」は、教職員支援機構の助成を受け実施しました。

詳細は <https://www.gedu.nagasaki-u.ac.jp/wp-content/uploads/2020/03/k-2019.pdf>



※2：「リーダーの役割と資質」「学校経営総論」「学校危機管理の理論と実践」は、長崎県教育センター管理職研修選択講座として、長崎県内公立学校管理職等へ公開しています。

実習

長崎県教育センターにおける職員研修について
実践的に学ぶプログラム

学校教育実践実習4 ※(県教育センターでの実習)

●参画講座

- ・新任教頭研、ミドルリーダー研、中堅研等から3・4講座（計90時間以上）

●研修内容

- ・各講座の企画段階から参画し、県の施策や指標を踏まえた学校経営、職員研修の重要性を理解できます。併せて、県の施策、学校教育目標を具現化するための視点、手立てを学ぶことができます。
- ・各講座において、指導助言や協議のファシリテーター役を担う経験を通して、ファシリテーターとしての心構えやスキルだけでなく、職位や世代別の視点や認識の違いを俯瞰的に考えることができます。

実習

附属・公立

学校教育実践実習5

●期間

教育学部附属学校・園

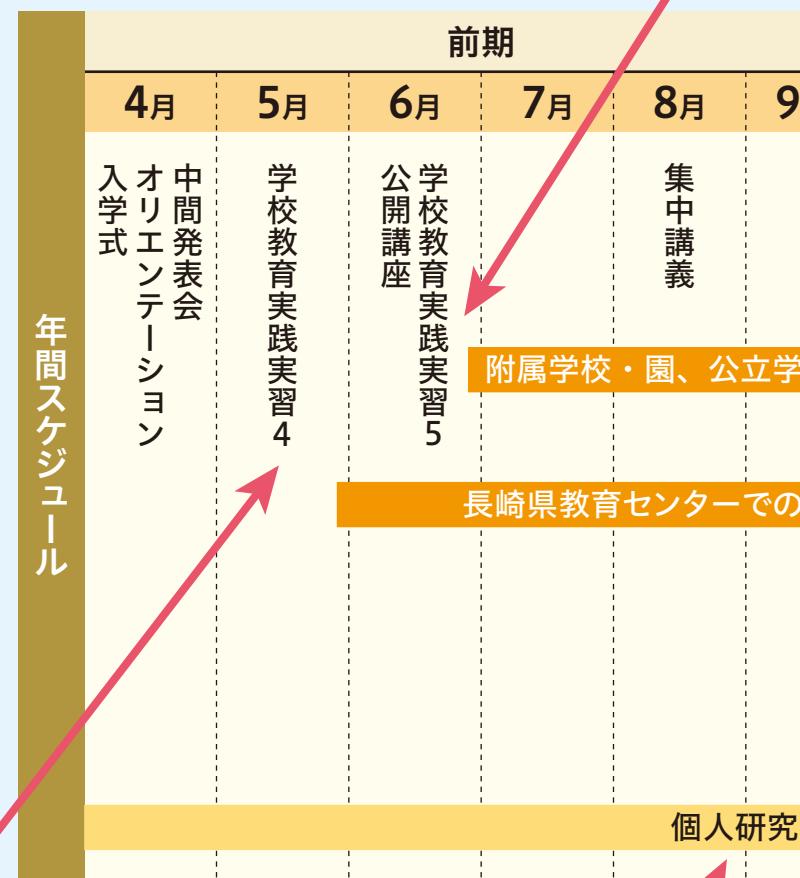
各3日

公立学校（校種毎）

各3日（計90時間以上）

リーダーの役割と資質（前期）※2

リーダーの役割と資質の理解に向けて、国内外の教育をめぐる動向を多角的に学び、それをこれまでの経験に照らして考察することで、自らの教育理念を問い直し、鍛えていくための授業です。「学び続ける」管理職としての在り方についても学ぶことができる貴重な機会となります。



実践研究報告書の作成に向け、

“学校教育実践研究”は、大学院にあたります。ここでは、組織開発や人学校経営において自分が詳しく研究していく、1年をかけて追究していきます。のような研究が行われてきたのかを研究籍を通して学んだり、附属学校等での管理職にインタビューをしたり、目的で調査研究を進めています。

研究を進めるにあたっては、大学教数で協働的に進めていくので、安心し究に取り組むことができます。

校の管理職から直接学ぶことができるプログラム^{※3}

(附属学校・園及び公立学校での実習)

● 内容

各校の実態に応じ、以下のような内容の実習を行います。

- ・管理職による登下校指導、授業参観、会議・研修への参加
- ・管理職の参与観察及び講話
- ・学校経営案や講話の作成、授業参観後の指導助言の方法の検討

※3：令和2年度「学校教育実践実習5」は、教職員支援機構の助成を受け実施しました。

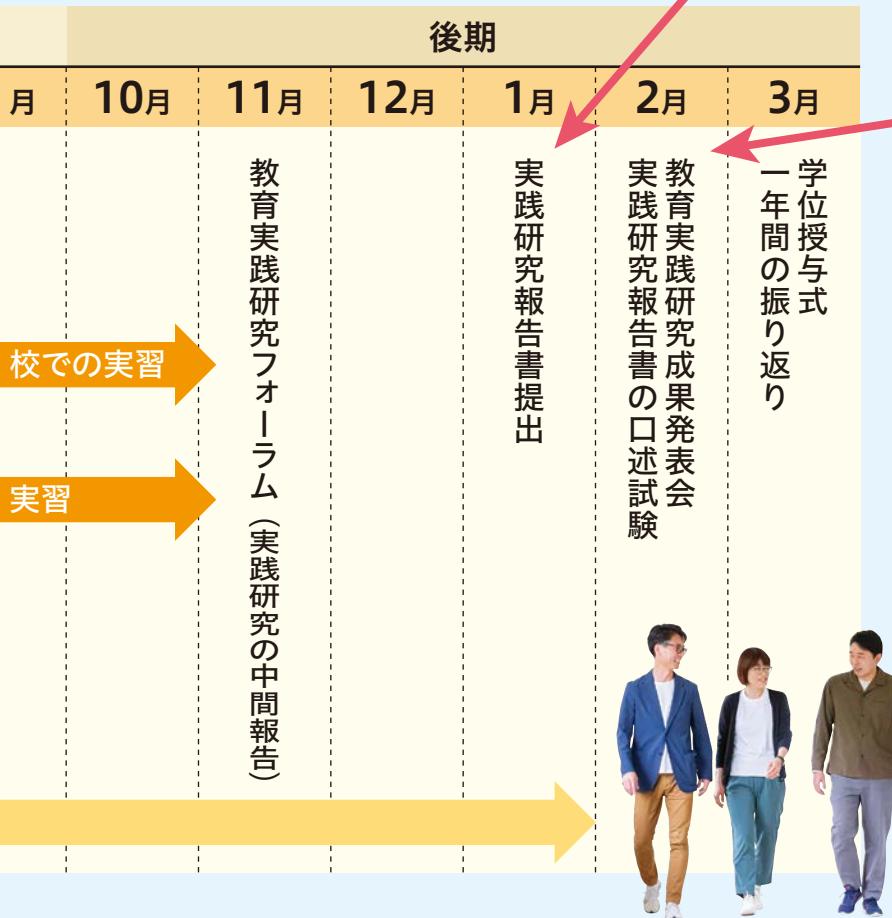
詳細は<https://www.gedu.nagasaki-u.ac.jp/wp-content/uploads/2021/04/houkoku-2020.pdf>



実践研究報告書(最終報告書)のテーマ例

- ・「活力ある学校」づくりへ向けての組織マネジメントに関する研究
- ・日常的に教員育成を図る校内組織の構築に関する研究
- ・地域と共にある学校を実現する管理職の働きかけ
- ・学校の教育力を高める人材育成に関する考察
- ・創造的な学校をつくる授業研究の在り方
- ・地域や家庭との連携・協働によるカリキュラム・マネジメントに関する考察
- ・学校経営方針の共有を図る管理職の具体的方策に関する研究
- ・「チーム学校」づくりのための組織マネジメントに関する研究
- ・持続可能な組織力を培う学校組織マネジメントの在り方に関する研究
- ・初任・若手教師の育成を中心とした育ち合う組織作りに関する研究

1年間の学びの集大成を 仲間と共有するプログラム



教育実践研究成果報告会

年間を通して、各自が取り組んだ研究を発表します。（発表・質疑20分）

参加者

教育委員会及び教育センター職員、
実習先教員、大学教員、院生、
一般参加者他



講義外での学び

● 院生室における学び

管理職養成コースの院生が、「子ども理解・特別支援教育実践コース」、「学級経営・授業実践開発コース」、「教科授業実践コース」の3コースの部屋に分かれて入り、講義内容について議論を深め、また、実習での授業づくりのアドバイスを行いました。



ゼミ形式で個人研究を深めるプログラム

おけるゼミに
材育成など、
たい課題につ
これまでにど
究論文や書
実習の中で
に応じた方
法

員も院生も複
て充実した研



在学生・修了生からのメッセージ

院でスキルアップ！

桂 杜成さん

子ども理解・特別支援教育実践コース

2年プログラム

在学生（令和4年度入学）



私は、学部生の頃、「より特別支援教育スキルを高めて教員になりたい」という思いが強くなり、大学院進学を選択しました。

大学院では、事例研究を通して、子どもを指導・支援するための方法を立案して実践し、実践で得た結果を分析しながら指導・支援方法を改善し、さらに実践を重ねることができます。その過程で、教授の方々のサポートを得ながら、指導・支援の情報収集から評価・改善までのプロセスのあり方を学べ、子どもを指導・支援するスキルを高めることができていると実感します。

また、学部卒の院生や現職教員、異なる教科を専攻している院生が集まっており、様々な視点での議論ができ、研究に繋げることができます。

大学院には、ここでしか得られない学びや出会える人たちがあるので、進学してよかったです。

一歩を踏み出す

池ノ下 祐子先生

教科授業実践コース

2年プログラム

令和4年度修了生（現 公立中学校教員）



「分かった！」と目を輝かせ、夢中で学ぶ子どもたち。その先には、与えられる問い合わせから、自らの問い合わせを深める学びへと成長していく、未来の姿が見えてきます。人生100年の時代を生きるといわれる子どもたちにとって、学校の授業は、将来の多様な生き方を選択する原点になる可能性があります。また、新型コロナウィルスによるパンデミックの影響やGIGAスクール構想の実現による一人一台端末の活用、オンライン授業を経て、授業のあり方が変化することが考えられます。これから教職を目指す方も現職の方々にも、いま授業実践を学ぶことには大きな意義があると思います。教科授業実践コースでは、教科に関する専門性を高めながら、先行研究を踏まえて、自分の研究を行います。私は、2年間の研究を通して、感覚的ではなく、根拠に基づく論理的な考え方で授業実践を捉えるようになりました。それは大きな成長だと感じています。教授の方々に熱心なご指導を賜り、新たな問いや視点を教えていただき、見たことのない景色に何度も出会うような深い学びをさせていただいたからこそ成長でした。研究は、同じ課題をもつ方々との共有や、今後の教育に貢献すること、そして子どもたちの豊かな未来に繋がります。本教職大学院には、豊かな学びと、新たな自分との出会いがあります。学びたいと思うすべての人に扉は開かれています。ぜひ一歩踏み出してください。

大学院があつてこそこの今

岡田 泰知先生

学級経営・授業実践開発コース

2年プログラム

令和4年度修了生（現 公立小学校教員）



私は、本大学の小学校教育コースに在学していました。学部生の頃、教育実習で子どもたちと関わる中で、教師への思いを強めっていました。それと同時に自身の専門性をさらに高めたいという思いも強くなり、大学院進学を決意しました。大学院では、講義や教育実習を通して、自身の経験を価値づけ、専門性を高め、自分の教育観を磨いていました。中でも大学院の教育実習では、様々な先生方との出会いを通して、授業や学級経営で大切にしたいことを考え直すきっかけになりました。また、机間指導に関して研究を行う中で、机間指導を高める技や机間指導から授業を改善するなど新たな視点を得ることもできました。現在私は、公立小学校で教諭として勤務しています。大学院の学びで得られた授業観や同僚との関わり方を生かして現場で頑張っています。分からないことも多く、苦しいこともあります。大学院で過ごした時間がなければ今ここにいなかったようにも思います。ぜひ大学院で学んでみてはいかがでしょうか。

学校を飛び出して

徳永 由美子先生

管理職養成コース

1年プログラム

令和4年度修了生（現 小学校教頭）



慣れると仕事ははかどる。見通しがもてるからだ。また、コツをつかむこともできるし、人脈も広がる。しかし、無意識のうちにその世界観がすべてだという錯覚に陥る。現場を離れることで、学校という環境や組織を冷静に見ることができた。かつ、これまでの歩みの省察を行う中で、出会いと環境が“人をつくる”ことを改めて強く感じた。

「学校という環境から飛び出してみませんか。」

教員が知らない世界や時空間との出会いがあります。学びがあります。心を落ちさせて物事と対峙できます。世代や校種を超えた仲間ができます。様々な研究分野で活躍されている大学教員や講師の方々と対話や議論ができます。こんなに素敵な場や時間が提供されるのが大学院です。

この1年があったからこそ、現場に戻った私は毎日が新鮮で、刺激的で、今ここにいることへの感謝の念に堪えません。ぜひ新たな自分との出会いにチャレンジしてください。

◆入試情報（日程）

大学院入試は9月下旬・11月下旬になります。

詳しくは、教育学研究科のホームページの「入試情報」をご覧ください。

教育学研究科(教職大学院)入試情報アドレス
<https://www.gedu.nagasaki-u.ac.jp/examination/>



教育学研究科 専門職学位課程

教職大学院 Q&A

Q

現在、教員免許を持っていませんが、教職大学院へ進学できますか。

A

本教職大学院では、教員免許を取得していない人が取得を目指す、3年履修プログラムを設けています。3年間で一種免許状と専修免許状が取得できます。ただし、子ども理解・特別支援教育実践コースへ進学し、特別支援学校教諭免許状の取得を目指す人は、基礎となる小学校あるいは中学校教諭の一種免許状を取得済みであることが必要です。

Q

現在、小学校の教員免許を持っていますが、英語教育に興味があり、中学校・高等学校の英語の教員免許を取得したいと考えています。どのコースに進学したらよいでしょうか。

A

中学校・高等学校の英語の教員免許を取得したい場合は、教科授業実践コースへ進学してください。他のコースより英語教育に関連した授業科目が揃っています。また、実習も中学校あるいは高等学校で行うことができ、充実した指導が受けられます。

Q

この大学院教育学研究科を修了し、教員になろうとするとき何か優遇措置がありますか。

A

はい。自治体によっては、教職大学院の修了者に教員採用試験の一次試験の免除などの措置をとっているところがあります。詳しくは、採用試験を受けようとする自治体にお問合せください。

Q

教員採用試験に合格し、大学院教育学研究科の入試にも合格しました。
この場合、大学院入学は断念し、教員になった方がよいのでしょうか。

A

多くの自治体では、本研究科のような教職大学院に合格した場合、修了まで採用を待つ措置をとっています。九州内の自治体では、長崎県をはじめほとんどの自治体が、教員採用候補者名簿の搭載期間を延長しています。詳しくは、採用を希望する自治体にお問い合わせください。

Q

教職大学院への進学を考えていますが、学費や生活費の面で不安があります。
授業料免除や奨学金制度は、どのようにになっているでしょうか。

A

日本学生支援機構の奨学金制度には、修了後、成績優秀者は奨学金の一部返還免除になる制度があります。また、長崎大学では授業料免除制度を設けています。詳しくは、教育学研究科の大学院担当にお尋ねください。

Q

現職の教員です。現職教員の院生数は何人ですか。給与はどうなりますか。

A

年度によって変わりますが、令和5年度は1年生14名（小学校籍10名、中学校籍1名、高等学校籍1名、特別支援学校籍2名）、2年生4名（小学校籍4名）です。募集は7月から始まる予定です（入試は令和6年度は2期に分かれます）。なお、給与は研修扱いであれば、学校に所属している場合と同じように支給されます。

Q

修了後の就職状況は、どうでしょうか？

A

右のグラフは、令和4年度修了生（現職教員を除く）の就職状況で、臨時採用教員も含めると教員就職率は100%でした。14人のうち10人が正規教員として教職に就いています。14人の校種別は、小学校7人、中学校3人、高等学校4人です。
ここ5年間では、約9割の人が教職に就いています。



令和4年度大学院修了生（現職教員除く）進路状況

- 教員(正規)既合格
- 教員(正規)
- 教員(臨時採用)



キャンパスマップ[®]

文教キャンパス



交通アクセス

- **JR長崎駅から**
 - 路面電車 「長崎駅前」→(赤迫行き)→「長崎大学」下車
 - 長崎バス 「長崎駅前」→(1番系統)→「長崎大学前」下車
- **JR浦上駅から**
 - 路面電車 「浦上駅前」→(赤迫行き)→「長崎大学」下車
 - 長崎バス 「浦上駅前」→(1番系統)→「長崎大学前」下車
- **長崎空港から**
 - 県営バス「長崎空港 4番のりば」→(昭和町・浦上経由長崎方面行き)→「長大東門前」下車



長崎大学大学院教育学研究科

〒852-8521 長崎市文教町1-14 TEL.095-819-2266
研究科サイト <https://www.gedu.nagasaki-u.ac.jp>



教育学研究科